

# 紙式回数券廃止に伴う払戻し方法について

紙式回数券廃止に伴う払戻しは、「購入額を総片数(11枚)で除して得た額に、未使用の片数を乗じて得た額(当該額に10円未満の端数があるときは、これを四捨五入して得た額)」とします。なお、手数料については、次のとおり払戻日によって異なりますので、ご注意ください。

### <払戻日による変更内容>

- ①令和6年2月26日～令和7年2月25日  
手数料200円で払戻し
- ②令和7年2月26日～令和8年2月25日  
手数料無料で払戻し
- ③令和8年2月26日～  
払戻し不可

### <計算式>

$$\text{購入額} \div \text{総片数} \times \text{未使用片数} - \text{手数料} = \text{「払戻し額」}$$

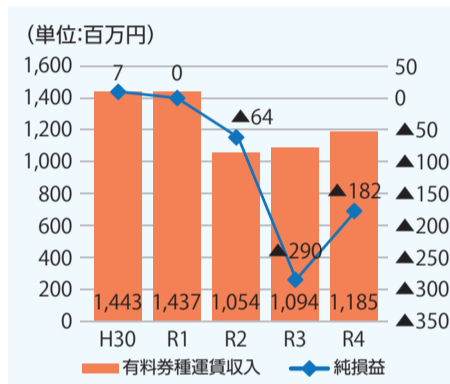
### <計算例>

「大人回数券4枚(7枚使用済み)の払戻しを行った場合」  
**2,100円** / 11枚 × 4枚  
- 手数料(200円または0円) = (560円または760円)

## 交通局の経営状況をお知らせします

コロナ禍以降、交通局では「乗合車両使用年数延長等による投資抑制」や、「コロナ禍に対応した臨時ダイヤでの運行による経費削減」「バス混雑情報提供システム(いたみバスナビ)導入による利便性向上」「詳細な乗降データに基づくダイヤ改正」等、様々な経営改善策に取り組んでまいりました。今後市民の皆様にも「安心・安全・快適」な市営バスサービスを提供していけるよう、更なる経営改善に努めてまいります。

### これまでの取組



**コロナ禍以降の経営状況**  
新型コロナウイルス感染症の影響で、市営バス利用者数は激減し、運賃収入は大きく減少しました。令和3年度以降、少しずつ回復傾向にはありますが、有料券種運賃収入(特別乗車証負担金を除く運賃収入)は、令和4年度においてもコロナ禍前の82.5%の水準にとどまっています。収入の大部分を占める運賃収入の減少は、市バス事業にとって、非常事態とも言える状況です。いわゆる赤字、黒字を示す「純損益」は、令和2年度以降、3年連続でマイナスとなり、赤字経営が続いています。

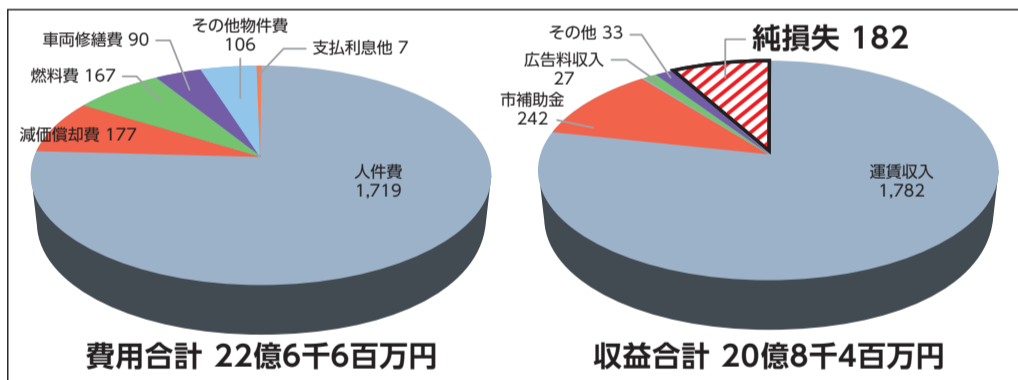


図2 令和4年度決算の概要

**令和4年度決算の概要**  
令和4年度決算は、総収益20億8千4百万円に対し、総費用は22億6千6百万円となり、1億8千2百万円の赤字となりました。収益の根幹である「運賃収入」は、前年度から9千万円増(+5.3%)となりましたが、コロナ禍からの減収額は2億5千2百万円と依然大きく落ち込んだままとなっています。一方、費用はバス事業という労働集約型産業の特性上、人件費が7割以上を占めています。令和4年度は燃料費の高騰等もありましたが、費用合計としては前年度とほぼ同程度に抑制することができました。現在の赤字構造からの脱却には、運賃改定を含む抜本的な経営改善策が必要な状況となっています。

### 令和6・7・8年度入札参加資格審査申請受付中

交通局では、3月1日(金)まで入札参加資格審査申請を受付しています。今回から全業種を対象として受付を行っていますので、交通局が実施する入札、見積等への参加を希望する事業者は、局ホームページから申請書類をダウンロードの上、必要書類を添えて期日までに申請してください。お問い合わせは、総務課財務係 072-781-3753まで。

皆さんは、普段市内を移動される際にどのような手段で移動されていますか？もし、マイカーや自転車を利用されているのであれば、それを年7回だけ市バスに転換していただくことで赤字は解消されます(令和4年度の場合)。

### 経営改善の特効薬は？

今回の運賃改定による収支改善効果は、右のグラフのとおりです。市営バスをご利用の皆さんにはご負担をお掛けしますが、これにより一定の収支改善が図られる見込みとなっています。しかしながら、市バス事業を取り巻く環境は大きく変化しており、現在の利用状況のままでは、運賃改定後においても厳しい経営が続くものと想定されます。

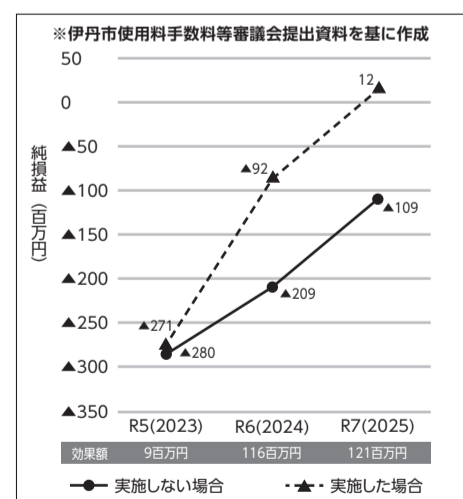


図3 運賃改定による収支改善効果(見込)

**みんなの市バス みんなで守ろう！**